

日 時 令和4年3月10日(木) 13:30~15:50 (オンライン会議)

審議事項

(1) 第4期中期目標・中期計画について

木暮理事から、資料に基づき提案説明があった。

併せて、学外委員からの事前質問について、資料に基づき回答を行った。

学外委員から、沖縄振興計画と琉球大学の第4期中期目標・中期計画とは様々な分野で関わりがあるので、連携して取組んでいただきたいこと及び地域連携プラットフォームの要として政策をリードしてほしい旨の発言があった。

審議の結果、原案のとおり了承された。

(2) 琉球大学の中期将来ビジョンに係る具体的な取組一覧について

木暮理事から、資料に基づき提案説明があった。

学外委員からの事前質問等について、以下のような意見交換があった。

○自己点検・自己評価は、実施コストの割に、経営の判断材料として十分ではないので、第1に通常の業務・教育研究について、単位別に投入資源量を把握し、毎年のパフォーマンスを定量的に把握する。第2に、すべての分野で新たな業務/事業展開の計画策定時に、3~5年程度の期間における投入資源量の計画と期待されるパフォーマンスを設定し、達成できていない場合の事業縮小・変更・見直し等の仕組みを設定してはどうか。

→投入資源の把握は財務的に行っているが、パフォーマンスを設定して達成状況を確認するまでには至っていない。第4期は、更に特色ある時代が求める取組に経費を措置し、学外委員からの仕組みを学んで活かしていきたいと考えている。

○取組番号7番外国人留学生特別プログラムの充実について、第4期中期目標・計画中に2件の採択を目指すのは少ないのではないか。

→国公立問わず大学院が年間45~50件程度、学部が年間4~7件程度の採択というかなり狭き門のプログラムとなっている。博士課程については、採択された年度の翌年度から3年間の優先配置となる。本学では、令和3年度に理工学研究科の理学系・工学系の両方が採択されており、3年後に申請を行う予定であるため、第4期中期目標期間中に2件という採択目標は妥当だと考えている。

○中期将来ビジョンのビジョン2と19を達成するために、取組番号7だけでは不十分ではないか。

→当該プログラムに採択されると、国費留学生数の同数以上の私費留学生を受けれることになるので、当該取組の充実に繋がると考えている。

○その点も書き加えていただくとより分かりやすくなるのではないか。

○取組番号39について、第4期中期目標・計画期間中における年平均学生交流件数を第3期中期目標・計画期間(平成28年度~令和2年度)の年平均件数(12.4件)から20%増加させるというのは少ないのではないか。

→この1, 2年かなり落ち込んだことから、まずはコロナ禍以前の状況に戻したいということで、目標値を設定したものである。コロナ禍以前の平均が14.5件、令和2年を入れると12.4件となり、その2割増しが14.8件であり、コロナ禍以前を上回るという目標を設定したものである。

○ビジョン2と20について、関連の強いアクションプランが提示されていないのではないか。

→ご指摘のとおりであることが確認されたので、取組番号39については、2-2と20-1を赤字に修正を行い、関連の強いアクションプランとしたい。

○取組番号47と48だけでは、ビジョン22のアクションプラン22-1と22-2がどの

ようにして達成水準を測れるのか分からない。

→ご指摘のとおり直接の評価指標とはなっていないので、具体的な内容の説明・関連をつけるようにしたい。

○取組番号47について、新キャンパス・病院での詳細な計画はこれからで、まだ評価指標がたてられない状況か。

→現状、建物・施設等はできているが、内部の運用については、予算の確保、人員配置等との関連で、特に病院地区での計画が立てづらい状況となっているが、計画を作成中であることから、今後明らかにしていきたい。

○長期ビジョンを達成するための中期将来ビジョンを主体にした中で、中期目標・中期計画がどういう風に達成されたかということ、毎年レビューしていくような形の方がアクションプランとの関連付けがしやすいのではないか。

○取組番号1について、その達成度は、学生調査による教育充実度と科目数の増加とあるが、科目数の増加とセットで学生の登録者、履修者数も加えることでより具体的な達成度になるのではないか。

→ご指摘のとおりだと考えているが、取組番号1は中期計画2-2そのものとなっており、文科省と調整しながら策定したものであるため、学内のご指摘の部分を確認・検証することとしたい。

○取組番号4について、カリキュラムに関する設問の肯定的回答割合は、学習成果の検証にはなっていないため、実際に身についた学習成果に即した評価指標及び達成水準の設定が必要ではないか。

→ご指摘のとおりであると考えてるので、調査項目の再検討を行い、どのような学習成果が身についたかに対応した評価指標を検討したい。

○取組番号9について、満足度やアクティブラーニングの割合を評価指標としているが、社会人向けリカレント教育であるため、学んだ内容や獲得した成果が職場等で活かされているかという尺度を設定し、達成度を測る方が良いのではないか

→リスクリングについては大学以外の機関に委ねており、本学では自己評価用ルーブリックや学習ポートフォリオをツールとして、プロとしての究極的な目的、職業上の価値観、自分が大切にしたい生き方、考え方、働き方に注目してその職業観を考え、議論し、ミッションをステートメント化するという教育目的をもっているため、満足度という指標がふさわしいと考えている。

審議の結果、原案のとおり了承され、今後の修正については学長一任とすることとなった。

(3) 令和4年度学内予算の編成方針(案)について

大城理事から、資料に基づき提案説明があった。

学外委員との間で、以下のような質疑応答があった。

○一昨年コロナの感染拡大を受けて、国から厚生労働省を通じて病院へ補助金があったが、今年はそのような補助金はあるのだろうか。

→現段階では具体的な話はないが、補助金があることを踏まえた形の予算案となっている。

○教職員の計画的な削減案について、非常勤講師の単価を下げる方策なのか、非常勤講師の数を減らす方策なのか伺いたい。

→2015年を基礎として削減計画を立てており、予算的に非常勤講師を半分にする形で進んでいるが、担当科目の精選やURAシステムの導入を行い、効果的な教育・研究・地域貢献ができるような形で対応する予定となっている。

審議の結果、原案のとおり了承された。

(4) 令和4年度学内当初予算(案)について

大城理事から、資料に基づき提案説明があった。

審議の結果、原案のとおり了承された。

(5) 経営協議会規程の一部改正について

西田学長から、資料に基づき提案説明があった。

学外委員から、第11条の改廃規定の変更の趣旨について質問があり、宮尾副理事から法律上の規定を明確に示すことが目的である旨の説明があった。

審議の結果、原案のとおり了承された。

報告事項

(1) 琉球大学における令和4年度運営費交付金政府予算（案）について

大城理事から、資料に基づき報告があった。

(2) 上原地区キャンパス移転の進捗状況について

大屋理事から、資料に基づき報告があった。

(3) 新型コロナウイルス感染症に係る本学の対応について

西田学長から、1月から沖縄県でまん延防止等重点措置が適用されたことに伴い、本学の活動制限指針レベルを変更して対応してきたこと、入学試験が無事完了したこと、卒業式・修了式・入学式は学生のみで行うこと、次年度に入って第3回目の大学拠点接種を予定している旨の報告があった。

懇談事項

なし

その他

(1) 時間外労働手当の差額分について

大城理事から、画面共有資料に基づいて、時間外労働手当の差額分支給について報告があった。

(2) 共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）について

木暮理事から、理学部の竹村教授と研究企画室の羽賀URAが中心となって申請を行った、JSTの「共創の場形成支援プログラム」（COI-NEXT）の本格型（予算：3億2000万円／年、期間：10年）に琉球大学のプロジェクト「資源循環型共生社会実現に向けた農水一体型サステナブル陸上養殖のグローバル拠点」が採択された旨の報告があった。

また、竹村教授から画面共有資料に基づき、同プロジェクトについて概要説明があった。

(3) 経済同友会インターンシップについて

井上理事と本村キャリア教育センター長から、学外委員からの紹介により、経済同友会のインターンシップに6名の本学学生を参加させ貴重な経験をさせることができた旨の報告があった。

(4) 大学運営におけるDXに向けた取組について

学外委員から、大学運営におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）に向けた取組について他大学の事例紹介があった。また、琉球大学においても本格的にDXに取り組んで欲しい旨の意見があった。

学外委員との間で、以下のような意見交換があった。

→本学においてDXは特定課題と位置づけ、複数の理事で担当し、進めていく体制にしており、准教授ポスト2を恒久的に充てて、デジタルキャンパス化に貢献してもらうこととしている。また、既に電子決裁導入を決定し、Microsoft Office365のTeamsの利用促進、学生証・職員証のデジタル化等にも取り組んでいる。

○銀行においても、リアルからインターネット、そしてスマホやクラウドを使う形に加速的

に変わってきていて、追いつくのに大変なので、一緒に考えていきたいと思う。
○DX化は待ったなしの事項であり、世界に置いて行かれないためにもプッシュしてやってほしいと思う。